

平成30年度第1回青梅市障害者地域自立支援協議会 会議録

開催日時 平成30年6月25日（月）

午後5時45分から午後7時45分

場 所 青梅市役所2階204・205会議室

出席委員 加藤委員、下畑委員、尾澤委員、大栗委員、古久保委員、中田委員、村松委員、大沼委員、朝長委員、永谷委員、恩田委員、及川委員、泉委員、山崎委員、遠藤委員、吉川委員、白井委員

欠席委員 行縄委員、山崎委員

傍 聴 者 2名

- 議 事
- 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 あいさつ
 - 4 委員自己紹介
 - 5 会長および副会長の選任
 - 6 自立支援協議会の役割について
 - 7 協議事項
 - 8 報告事項
 - 9 その他

資料一覧

平成30年度青梅市障害者地域自立支援協議会委員名簿

平成30年度青梅市障害者地域自立支援協議会部会委員名簿

市町村の（自立支援）協議会の役割

第5期青梅市障害者計画策定準備調査について

専門部会報告書

日中活動・就労支援部会

相談支援部会

差別解消・権利擁護部会

平成29年度第4回青梅市障害者地域自立支援協議会（会議録）

平成29年度・平成30年度虐待通報等の状況

青梅市障害者地域自立支援協議会 家族支援部会 報告資料

1 開会

障がい者福祉課長より開会の宣言。

2 委嘱状交付

健康福祉部長より委員に委嘱状交付。

3 あいさつ

(健康福祉部長)

4 委員自己紹介

委員自己紹介

事務局自己紹介

5 会長および副会長の選任

昨年度に引き続き、吉川委員が会長、尾澤委員が副会長に選任。

会長、副会長あいさつ

(会長)

自立支援協議会発足して11年目。当初からの委員は4名いる。そもそも自立支援協議会とはどのようなものなのかを知らない方も多い。

10年前に、青梅市自立支援協議会ができて、障がい者福祉を向上させていくため、障がい者の地域生活をより暮らしやすくしていくために何をしていくのが良いのかを話し合い、それぞれの方々がそれぞれの立場からこれが必要だという提案をした。例えば、商工会議所の方は障がい者雇用が進まない、事業主からは雇い方がわからない、学校教育現場からは特別支援校の子どもと普通学級の子どもとの交流をどのようにしたら良いか、など。相談については、そもそも青梅市民は人に相談する習慣がないため、ニーズを発掘して、声を出せない人に声を出してもらう、地域での障がい者理解がまだまだなので、啓発活動をもっとやっていかないといけない。特に小さい子供のうちから健全に子育てができる仕組みが必要だとか、家族会の声を拾い上げないといけないけれども家族会がないなど、いろいろなことが出てきた。それぞれ課題として挙げられたものを大まかに括って部会を作ったのがそもそもの始まり。それ

それぞれの部会でかなり活発な活動をつづけ、家族支援部会では精神障害者家族会の立ち上げをして運営を軌道に乗せる、理解啓発活動部会では、出張相談や芸術活動支援、日中活動・就労支援部会では、障害者が就労している企業の見学会等を行い、相談支援部会では、基幹相談支援センターの必要を訴えていたがなかなか多摩地域で整備されず、多重問題や一か所の事業所では困るようなケースについて関係者が集まって相談し解決に結び付けることを行ってきた。それぞれの課題に応じて活動が成熟し定着して、順調に運営ができるようになった。

自立支援協議会とはどういうものか。新規の委員もいることから、共通見解を踏まえて、部会活動に反映させていったらどうかと思っている。

これまで、他の自立支援協議会では見られないような事業体のような活動をしてきた。青梅の中に資源がなかったので資源を作らざるを得なかったが、そこをまた一歩越えて次の段階を迎えないといけない。

（副会長）

どういう風に自立支援協議会を作ったら良いかから準備会から携わってきた。年を追うごとに少しずつ変化をしてきていて、とりあえずやってみて、必要に応じて見直しをして再編をしていけばよいという話の中から、部会も少しずつ変わってきた。

「自立支援協議会は何をやっているのでしょうか。」と言われれば、こういう事をやっていますと答えられればいいし、自治体によっても自立支援協議会の活動の仕方も温度差があるので、青梅市にとってはどういう活動の仕方が良いか一緒に考えていければと思う。

6 自立支援協議会の役割について

（会長）

（資料：「市町村の（自立支援）協議会の役割」をもとに説明）

市町村の自立支援協議会の役割について説明する。

自立支援協議会は地域の関係者が集まり、個別の相談支援の事例を通じて明らかになった地域の課題を共有し、課題を踏まえて地域のサービス基盤の整備を着実に進めていくという役割をもつ。どのようにまちづくりに生かすかが大切。

今の青梅市における地域課題を、部会としても考えて案をあげていた

だくことが必要。

各部会で把握した１人１人のニーズを地域全体でどうやって具体化して地域を変えていくかを話し合う場が全体会というイメージ。

部会の中で地域のニーズを拾い、改善案や開発案などの素案を作って全体会でみんなで協議して決めていく。地域の支援づくりの協議をする場。

7 協議事項

(1) 第５期青梅市障害者計画策定準備調査について

(事務局) 第４期青梅市障害者計画（平成２７年～平成３１年）が、平成３１年度で終了する。第５期青梅市障害者計画を平成３１年度に策定、平成３２年度からの実施に当たり事前調査を今年度実施したい。第４期策定時に行った事前調査実施時期についても、協議内容、アンケートの設問についての、設問内容について、各専門部会で協議頂き、内容を検討した上で第２回自立支援協議会でアンケート素案を御提示し協議した結果を第３回自立支援協議会で報告確定しアンケート調査をしていきたいが、皆様の御協力を頂いてよろしいか。

(質問) 特になし。

(2) 専門部会からの提案・協議事項

ア 日中活動・就労支援部会

(部会長) ６名で実施。外部委員を選任した。

昨年から引き続き、今年度も７月９日に第１回障害者理解見学会を実施します。１１月８日雇用支援、「障害者の人の気持ちや声を伝えよう」障害者雇用推進ＰＲ冊子を作成。他の案、雇用啓発ポスター・ラッピングバスなど。

放課後等デイサービスの重要性や質の向上を図っていく。事業者にも事業の重要性を認識してもらい、連絡会を立ち上げ、事業者ごとの連携を強める。

就労支援班、日中活動班に分かれ活動。

定期的に全体会を行いきちんと情報共有していく。

医療的ケアについての検討は、相談支援部会と連携する。

(質問) 特になし。

（会長） 以前の部会（家族支援部会）の内容も含まれている。

放課後等デイサービスの質の差が大きいことが指摘されている。親教育をどこでやっていくかが、問題となっている。わが子とその家族にとって今何が必要かということを親御さんに理解してもらい考えを変えてもらう、親子の絆を結ぶ時間を考えて気づいてもらうことも必要。

（委員） 特別支援学校は下校時刻になると多くの事業所が迎えに来て子供達を乗せていく。青梅市の中の事業所だけ対象にするのか、青梅市以外の事業所も考えるのか、親は、どこでも受け入れてくれればよい。事業所のエリアはどこまでか。

（事務局） 青梅市内の事業所を想定している。

特別支援学校と連携し、生徒が利用している放課後等デイサービスの連絡会に市が出席し事業所・学校と意見交換をしている。そこで頂いた意見を部会に報告し協議する。先生方が交通整理で精一杯の学校もある。幅広くニーズを吸い上げて対応するため、他校についても検討していきたい。将来的には西多摩圏域になればよいと考え、まずは青梅の事業所から考えている。

（会長） 安全にこどもの面倒をみてくれる事業所は、働く親にとっては重要。その一方で、地域に知り合いを増やすことも大切。関係があれば、いざという時に守ってもらえるし、声をかけてもらえる。ドアツードアでの移送は、地域の中で知り合いを増やすことにつながる。

別の場所で、地域での知り合いを増やさないといけない。そのように、総合的な枠組みの中でものごとを考えていかないといけない面もあり、そのような意見も全体会の中で話していけるとより楽しい議論ができるだろう。

（委員） 送迎の車がたくさんあるより、大型バスで事業所を巡って送迎することもいいし、バスの中でレクリエーションをしたらなどもいいかも。

（事務局） 補足、専門部会において『一緒に働いている人が、なんで教えても分からないのと思ってしまわれるとうまくコミュニケーションが図れないが、そこをもうちょっともう一声かけてもらえる

と分かるということを知ってもらうことが大切』これらを発信する冊子の検討を始めている。

障がい者理解見学会のポスターは、特別支援学校が作成。ツイッターにも掲載している。作成した生徒の励みになると思い、商工会議所やハローワークに啓発ポスターの掲示可能を取り付けている。

イ 相談支援部会

(部会長) 事例検討会を毎月開催し、困難ケースの検討を行っている。

4月20日開催 平成30年度から法改正。

かなりたくさんの事業所が事例検討会に参加している。

障害福祉サービスが上手く使えないケースの検討。

5月30日開催

家出を繰り返す自立願望があるケースの検討。

6月20日開催

入所施設に籍はあるが帰省が長期化しているケースの検討。

6月22日開催

30年度は、計画相談、基幹相談支援、地域生活支援拠点について検討する。

巡回相談について、市役所やサポートセンターに相談するところですが、相談しやすいよう巡回相談を行ってきた。

(質問) 特になし

(委員) 5月30日の事例検討会の内容で短期入所を「勝手に利用した」とはおかしい。勝手に使うわけではない。

(事務局) 基幹相談支援、地域生活支援拠点を部会で御協議する資料の準備をしています。また、巡回相談の代わりとして外に出るきっかけが必要だと意見がありどんな方法があるか検討している。部会に報告していく。

(委員) 計画相談の協議は進んでいる。支援区分がいくつの人が何人いるのか、実際に利用しているのか、サービスの利用率が分かる資料があるとニーズがみえるのではないか。

(事務局) 資料を用意する。資料が用意できたら助言をお願いしたい。

(副会長) サービス計画面談のときに、「一応持っていた方が良いで

すよ」と案内する。放課後等デイサービスの日数が多い方もいる。親子と向き合えるかな。

(委員) サービスが増えた。学校では手厚いサービスを受けられる。学校卒業後、サービスを親が知ってもらうことが必要。

(事務局) 今年 of 取組みで特別支援学校は対応している。羽村特別支援学校では、卒業後、サービスを利用するために市へ相談が必要になる。今年 is 最初、本人、親、学校と一緒に市役所の窓口で会う機会を作ろうと試みている。

ウ 権利擁護・差別解消部会

(部会長) 外部委員も登用していく予定。

差別解消について、都条例も施行予定の中、市として、条例か他の方法でアピールするか方向性を決めていく。内容については、全体会で協議していく。第5期障害者計画策定のためのアンケートの設問に差別解消についての設問を設定していくために障害者との意見交換会、企業アンケートを実施し設問について協議する。

作品展示会について協議会発足から啓蒙啓発活動として12月の障害者週間に市役所ロビーで作品展示会を行っている。実行委員会を立ち上げて行っているため、自立支援協議会から巢立たせる方向でこの2年間で検討していく。

虐待について、各虐待の会議、コア会議など虐待の取扱いについて検討していく。

(質問) 特になし。

(会長) 作品展示会が、自立支援協議会から独立するということ。家族支援部会で設立支援をした精神障害者の家族会も独立した。企業見学会も独立しそう。ネットワークづくりもこの協議会の仕事の一つ。

(3) 会議録の作成等について

(事務局) 第4回の議事録を添付資料のとおり掲載していく。第1回の議事録からは、市議会でも質問があり見直していく。会議録も他の機関を参考に検討していく。委員名は省くが発言内容載せていく。

(会長) 会議録を細かいものに変えていくとのこと。個別の内容をどこまで出すか、個人情報、相談支援部会の報告内容をどうするのか。

(事務局) 個人が特定できるものは、会議録では事例検討のみにする。

(会長) 表記の仕方について、障害者手帳の種類や当事者の年代よりも、親元からの自立を考えている事例や親と本人の自立の考え方の違いで自立できない事例など、ニーズと課題に結び付くようなものにするのと青梅市の課題と取り組みが見えてくるのではないかな。

(事務局) 相談支援部会の部会長と相談して決めていく。

(委員) 完璧な議事録ではなく、ある程度要約するが言葉が分かる議事録にするとのことだが、作成者の主観を入れると違った表現になるのでそのままの議事録を作成してください。事実をそのまま議事録にしてほしい。

(事務局) 会議で意見が言えなくなるため委員名は省略。発言の主旨が変わらないように作成する。

議事録の承認は、協議会が年4回しかないなので、承認について、作成した議事録を会長に一任か委員全員に確認してもらうのか確認方法について御協議をお願いしたい。

(会長) 各委員に承認してもらう。各委員は、発言した部分を確認してもらう。

8 報告事項

- (1) 平成29年度第4回協議会会議録について
承認

- (2) 第5期青梅市障害福祉計画・第1期青梅市障害児福祉計画について

(事務局) 皆様に御尽力を頂き作成することができた、第5期青梅市障害福祉計画・第1期青梅市障害児福祉計画について、本日配布する。

- (3) 「笑顔で子育て」(平成29年度子ども健全育成部会作成)について

(委員) 無事作成することができました。放課後等デイサービス等障害児向けの事業者情報を、事業の内容も含め掲載しました。

(事務局) 子ども健全育成に関する冊子は、西多摩地区にはなく、他市

からも参考に欲しいとの依頼があったので情報提供します。

(4) 市内における虐待通報等の状況および対応について

(事務局) 添付資料のとおり、昨年度は、計 13 件、今年度本日まで 3 件報告を受けている。

6 月に知的の障がいのある方が行方不明になり、10 日後帰宅した。当初家族から虐待と思われ本人に確認したが虐待ではなかった。本人の体調のことを考え病院受診したが問題はなかった。この世帯のコア会議を開催している状況。本人の自立を考え、グループホーム h r の入所を促していく。

(5) 専門部会からの報告

平成 29 年度の家族支援部会から、平成 30 年 3 月 8 日に開催した講演会の実施報告がなされた。

9 その他

(事務局) 次回委員会は、平成 30 年 10 月 1 日（月）午後 2 時から午後 4 時に、青梅市役所 2 階 202・203 会議室で開催する。